



社会福祉協議会「椎名だより」

平成30年度 第1号 (通算19号)



千葉市社会福祉協議会
マスコットキャラクター
ハーティちゃん

発行者：千葉市社会福祉協議会椎名地区
編集者：千葉市社会福祉協議会椎名地区 広報委員会
代表 岡本 博幸 〒266-0021千葉市緑区刈田子町28

平成30年度（第三次地域福祉活動実施計画） 「つなぐ・つながる・ひろめる」 千葉市社協行動プラン重点取組6項目と 社協椎名地区部会行動目標との関連

千葉市社協行動プラン（第三次地域福祉活動実施計画（平成30年度））が5月に示されました。社協椎名地区部会は総会を5月19日に開催し、全ての事項が可決され、行動指針が決定しました。この活動内容と市社協重点取組6項目とを関連させ、今後活動を推進していきます。

一 見守り活動の推進

見守りとは高齢者に対して見守り支援者が側面的に見守りをするという狭義的な考えで進めてきましたが、今後は、地域の住民みんなが「見守り、見守られる」という相互扶助の意識に立った考えで、推進していきたい。その意識改革を目指す活動が見守り活動です。

- 高齢者・障害者
 - ①古市場団地お元気確認委員会の推進充実
 - ②他地域への拡大、③地域における住民の声かけ運動の促進
 - 子ども
 - ①地域の挨拶運動促進②自分ができるボランティア活動の促進

二 地域支え合い活動の促進

支え合いとは人間関係の絆づくりです。心の問題、物質的な問題、生活の諸問題を、相手の立場に立ち、話し合うことができる環境作りでもあります。「声をかけてみよう。お裾分けをしてみよう。お茶を飲み合う時間を作ってみよう」その心を大切に。

- 高齢者・障害者
 - ①福祉バザーの開催②歳末独居高齢者慰問
 - 子ども
 - ①福祉授業の支援②学校教育・行事への支援
 - ③地域伝承文化「羯鼓舞」の充実④認知症授業の促進

三 ふれあい・いきいきサロンの促進

「集まってみよう。参加してみよう」「参加したら大きな声を出してみよう。大いに笑ってみよう。体を動かしてみよう。食べて飲んでみよう」それが心と体を生き生きと活性化させてくれるエネルギーとなり、健康寿命を延ばす【薬】になるのです。

- 高齢者・障害者
 - ①古市場地区の内容の充実（楽器演奏の取入れ）
 - 子ども
 - ①高齢者とのふれあいの場を継続する

四 社会福祉法人の地域における公的な取組みの相談支援

椎名地区には社会福祉法人の施設がありません。近くに小規模施設がありますが十分な連携はとれていません。見学、ボランティアの活動は出来ません。今後は近隣の施設において公的な取組を紹介していただき、連携をしていきたいと考えています。

- 高齢者・障害者
 - ①椎名地区には社会福祉法人施設は無い。近くの施設との交流を充実させ取組みを支援する。
 - 子ども
 - ①施設と学校との委員会を活用して交流促進を図る。

五 CSWを中心とした生活支援の展開

「コミュニティソーシャルワーカーの名称聞いただけでは分からない。」「社会福祉協議会は何を目的とした行動をするのかもはっきりしない、皆目検討がつかない」そこで椎名地区では名称を「椎名社協・区社協なんでも相談会」といたしました。

- 子ども
 - ①CSW担当者は理事会に参加し福祉の情報提供をする
 - ②CSW担当者自らアイデアを提供し活動に参画する
 - 高齢者・障害者
 - ①地域の健康相談の促進②あんしん、健康課、社協、自治会との関連促進③支援体制の組織化を図る。
 - 子ども
 - ①学校の福祉教育の支援、出前授業に取組む。

六 災害ボランティアセンター設置、運営に向けた体制・強化

災害ボランティアセンターの設置、運営については、社協独自で推進するのではなく、地区連協・協議会等と提携して推進を図り、その中で社協としてできることを明確にしていきたいと考えおります。

- 地域
 - ①町内の避難場所、発電機の所有者、②井戸水の確保できる家の確認、③高齢者・独居高齢者、障害者、認知症者の確認
 - 高齢者・障害者
 - ①災害時における見守り希望者の把握、②災害時の避難方法
 - 子ども
 - ①災害時における身の守り方の理解。

創設 明治六年十月
「致廣小学校」(現椎名小学校)
校名に込められた高梨来三氏の思い

一 学制発布

明治5年(1872)8月に政府は日本の近代化のためには教育の充実が不可欠と考え、『学制』を発布し、小学校の設立、就学を進めました。

この『学制』は、『学問は身を立つるの財本』という考えに立ち、以後一般の人民(華族士族・農工商及び婦人)に、『必ず邑(むら)に不学の子なく、家に不学の人なからしめん事を期す。』と、宣言しました。この『学制』は小学校が下等小学校4年、上等小学校が4年の8年制でした。

二 「致」とは、『論語』の言葉

・『論語』卷十子張十九の七 『論語』

「子夏曰、百行居肆以成其事、君子學以致其道」

・読み下し

子夏がいわく、百行、肆(し)にて以て其の事をなす。君子、学びて以て其の道を致す。

・現代語訳

子夏がいった。「職人たちは仕事場においてそれでその仕事をしあげる。君子は学問をしてそれでその道をきわめる。」

・『致』の意、いきつくこと。『致』の解字『至』矢が一直線までとどくさま、

・『文』足で歩いて目標まで届くこと「会意兼形声」

三 文化二年鶴岡市に庄内藩校「致道館」が設置

山形鶴岡市に庄内藩校「致道館」がありました。庄内藩酒井家九代忠徳(ただあり)が敗退した土風刷新して藩政の復興を図るために文化2年(1805)に創設した学校でした。

高梨家は天文二十二年(1553)武田信玄との戦いに敗れ、高梨城は落城し、曾祖父高梨頼宗は越後に下りました。以後二百有余年の月日が経っているが、高梨来三氏は「致道館」について祖父から聞いていたことと考えられます。学制発布とともに、この考えを生かしたいと思つたに違いありません。

四 高梨家とは

・中世初期頃に、上高井郡中部以北に井上・高梨・村山らの土豪があり高梨氏は北方の小布施町地域を中心に興っている。

・中世初期に現れる八条院領東庄は「狩田郷(現小布施町)」の広大な莊園にまで成長。
・鎌倉時代後期様原庄(くぬぎはら)一帯は様高梨氏がその中心勢力となる。高井郡の豪族にて井上党とす。高梨氏は信濃源氏の名家であった。
・武田との戦いにおいて、一人楯籠り戦う。仲間の裏切りにあい落城、越後に下る。

・高梨再興を期して源頼朝を頼って東国に下る。
・荇田子郷に所領を頂き再起を期す。
・千葉常長卿六男胤光椎名城築城、城主となる。

五 高梨城址とは難所不落の城址

・中の平高梨、三六万貫三方大河流れ、鴨の岳より黒岩の峰高く、流れの末までも屏風立たる如くにて、いり口は一方口、特に一騎打ちの難所なり、これを破らん事多少劫をふるともいかに叶候と記述されています。

六 高梨来三氏学校を創設

高梨家は荇田子郷にて清酒「高千穂」の醸造業を営んでいました。高梨来三氏は学制発布とともに『官立学校設立伺書』千葉県令柴原 和殿に提出認可されています。
・学校創設者高梨来三氏(想定)
・荇田子は第二十四番中学校内四十六番
・小学校名称「致廣小学校」(格物小学校)
・学校十四番

・地所・宝蔵寺 荇田子成

・坪数三十二歩・畳数二十二畳

・児童数二十七名(男子)『文部省年報』

・主者(校長) 寿多 榮 荇田子に設立

・右の通設立仕度此段奉伺候成

氏は、これからの日本国は世界に通用する人材の育てなければ益々とり残されていくとの考えに立ち、政府の施策に賛同したのでした。

氏は高梨家の隣の菩提寺「宝蔵寺」を学校として提供し、教育者としての道へと進んだのでした。

「聖寶寺」は明治四十四年当時谷津村字宮ノ下にあった「聖法寺」と合併し「聖寶寺」改名しました。

七 高梨来三の命名した「致廣小学校」の思い

「致廣」と命名したのは、次のような考えが込められていると考えたいです。

武士の時代は上意下達の組織であり、一般市民人は意見を具申することはできない社会でありました。

高梨来三は先祖は戦乱の世を勝利と敗北の辛酸をなめ、今はここ荇田郷で穏やかな営みを送っていました。

明治になり学制が発布され、農工商婦女に教育を受けられることになったのは社会の大きな変革でした。

学ぶ意欲あるものは、自分の道を広めていき、自由が認められるようになったのでした。今まで支えてくれた人達への御恩返しとして、お寺を学校として使い、才覚をある子どもたちのために活かしていこうと考えました。「致廣」とは

① 未来を背負う子どもたちには、世界の知識を学びそれを生かし日本の発展に寄与する人間を育成にする。
② 椎名近郷から、日本の社会を背負っていく人間を育成し村の発展に寄与して人材を育てる。
③ 廣く知識を求め、最後まで探求し、自己を磨き、他の範たる人になってほしい。という思いがありました。

八 高梨恕平氏の父来三氏の教育観を受継ぐ

高梨恕平氏は安政六年(1859)二月十八日。高梨来三・さだの長男として刈田子町に生まれました。氏は幼い時から和漢の学を須田栄・坂本日恒(につかん)に学びました。学制が発布されたとき、恕平氏は十三歳でした。その後酒造の学問を深め左記の要職に就きました。

・明治二十二年椎名村会議員

・明治二十四年同村収入役

・明治二十八年同村助役

・明治三十二年同村村長

・明治三十四年椎名村高等科新増設に当たり敷地、並びに金円を寄付、県知事から表彰

・明治三十六年千葉郡会議員に選出

・明治四十年二月県会議員補欠選挙に千葉郡から憲政

・明治四十年九月、四十四年九月の選挙に当選

・大正四年九月まで在職

・大正九年六月二十一日死去・六十一歳

・『千葉県議会史議員名鑑』編纂者千葉県議会史編纂委員会・発行者千葉県議会・昭和六十年三月発行

九 「致廣小学校」創設地に記念碑の設置を

「致廣小学校(宝蔵寺荇田子町一番地)」は現在も残っています。土地の周りには石仏が何体も残っています。この地に記念碑を立て後世に残したい。

周りを整備して公園として活かしていきたい。使っていない石を一つづつ持ち寄り、椎名の誇りとしてできないものだろうか、と考えています。

子どもたちの学習の場として活かすことができれば創設者の思いも叶うし、椎名小学校で学ぶ子どもの指針となると思っています。

昔を語る人もいなくなりました。資料や学んだ人がいましたら教えてください。(岡本 博幸)